

第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会及び 第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (令和4年度) の開催 (詳報)

令和4年11月11～13日の3日間、福岡県福岡市ヒルトン福岡シーホークにおいて、第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会が開催された (写真1)。また、大会会期前の11月9日には、同会場において第44回FAVA代表者会議が開催され、本会の藏内勇夫会長がFAVA会長に就任した。

なお、本大会にあわせて第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (令和4年度) も開催された。

1 会議開催までの経過

FAVAはアジア・オセアニア地域における獣医師の連携を図り、獣医学教育及び獣医学研究の改善に協力することにより、獣医業の地位を向上させることを目的として1978年に設立された国際機関であり、2年に一度のFAVA大会の開催の他、獣医学教育等獣医事に関する国際交流等を実施している。日本は設立当初から加盟し、現在、米国を含む23カ国及び地域から24団体が正会員として加盟している。

日本獣医師会は、世界獣医師会 (WVA)、アジア獣医師会連合 (FAVA) の会員として活動する中で、両団体の大会 (世界獣医学大会: WVC, アジア獣医師会連合大会: FAVA大会) を開催してきた。

まず、フィリピンで開催されたFAVA設立大会に続いて第2回大会は1980年に東京都新宿区で開催された。

さらに、1995年に第25回WVCが第20回世界小動物獣医師会大会と神奈川県横浜市で同時開催され、両大

会とあわせて同一会場 (パシフィコ横浜) で第9回FAVA大会が開催された。開会式と歓迎レセプションには天皇皇后両陛下にご臨席をいただき、来賓やプレス、展示関係者もあわせると1万人を超える参加者を得て、大成功を収めた。

2016年には第2回世界獣医師会-世界医師会ワンヘルスに関する国際会議が福岡県北九州市で開催された。同会議は世界獣医師会-世界医師会で取り交わされたワンヘルスに関する協定に基づいて、初の両会の共同主催によりスペイン・マドリードで開催された第1回世界獣医師会-世界医師会ワンヘルスに関する国際会議において、わが国の日本医師会と日本獣医師会の連携活動が高く評価され、わが国での開催が決定されたものである。大会では、世界獣医師会-世界医師会-日本医師会-日本獣医師会の4者によりワンヘルスに関する基本的な活動について合意された「福岡宣言」が採択され、ワンヘルスに関する国際活動の礎となっている。



写真1 開会式全景

わが国では、1995年の開催以来FAVA大会は四半世紀にわたって開催されていなかったが、アジア各国からのわが国に対する期待に応えて、2019年11月16日にフィリピン・ボラカイで開催された第41回FAVA代表者会議において、第22回FAVA大会のホスト国には、福岡県福岡市を開催地とし、「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとして開催することとしてわが国が立候補した。代表者会議における審議の結果、全会一致でわが国が開催国に選出され、あわせて藏内会長がFAVA次期会長（第21回FAVA大会の際開催される第44回FAVA代表者会議においてFAVA会長に就任）としてFAVA副会長に就任することが決定した。

FAVA代表者会議での決定を受け、「第22回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」組織委員会が設置され、2020年1月22日第1回委員会が開催された。また、大会の会場はヒルトン福岡シーホークに決定された。

なお、2021年4月開催のFAVA臨時代表者会議において、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて2020年にマレーシア・サラワクにおいて開催予定の第21回FAVA大会が2023年に延期されて第22回FAVA大会に変更されることが決定し、福岡市で開催される大会は第21回FAVA大会に名称が変更されることとなった。

第21回アジア獣医師会連合（FAVA）

大会組織委員会委員名簿

大会長	藏内勇夫（日本獣医師会会長）
組織委員会	
委員長	藏内勇夫（日本獣医師会会長）
副委員長	酒井健夫（日本獣医師会顧問）
委員	砂原和文（日本獣医師会副会長）
委員	村中志朗（日本獣医師会副会長）
委員	境政人（日本獣医師会副会長兼専務理事）
委員	佐藤ええ子（日本獣医師会理事、 日本小動物獣医学学会会長）
委員	佐藤繁（日本産業動物獣医学学会会長）
委員	佐藤真澄（日本産業動物獣医学学会副会長）
委員	猪熊壽（日本産業動物獣医学学会副会長）
委員	三角一浩（日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員会副委員長）
委員	岡野昇三（日本小動物獣医学学会副会長）
委員	滝口満喜（日本小動物獣医学学会副会長）
委員	丸山総一（日本獣医公衆衛生学会会長）
委員	植田富貴子（日本獣医公衆衛生学会副会長）
委員	三澤尚明（日本獣医公衆衛生学会副会長）
委員	荻和宏明（日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員会副委員長）
委員	中山裕之（日本獣医師会獣医師国際交流推進検討委員会委員）

委員	久和茂（日本獣医学会・国際交流担当理事）
委員	釘田博文（国際獣疫事務局アジア太平洋地域事務所代表）
委員	勝田賢（農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門長）
委員	前田健（国立感染症研究所獣医科学部長）
委員	草場治雄（福岡県獣医師会会長）
委員	野原隆士（福岡県獣医師会副会長）
委員	今村和彦（福岡県獣医師会専務理事）
顧問	服部誠太郎（福岡県知事）
顧問	高島宗一郎（福岡市長）
顧問	クアザ・ニザムディン・ビン・ハッサン・ニザム（FAVA会長）
顧問	バンバン・ボンジョ・プリオセリヤント（FAVA事務局長）

組織委員会に設置されたプログラム委員会（委員長：酒井健夫日本大学学長）では、大会における学術プログラムの策定と演者の人選に取り掛かり、全体の構想として、第1会場で全会期を通じて開催される中心的な学術プログラムとして、ワンヘルスに関するさまざまな話題を取り上げ、「アジアからのワンヘルスアプローチを考える」と題する特別シンポジウムを企画することとなった。

なお、大会の目玉となる記念講演は、国立国際医療研究センター国際ウイルス感染症研究センター長の河岡義裕氏にご講演を行っていただくこととなった。

組織委員会に設置された財務委員会（委員長：砂原和文日本獣医師会副会長）、交流委員会（委員長：村中志朗日本獣医師会副会長）、渉外・総務委員会（委員長：境政人日本獣医師会副会長兼専務理事）は、それぞれ収入支出の管理、交流プログラムの企画・運営、関係機関・団体との交渉に当たった。特に協賛、広告、寄付等の募集に関する交渉については、財務委員会の活動に村中交流委員会委員長、境渉外・総務委員会委員長が協力して企業訪問を行い、多数の企業から支援をいただいた。

一方、開催地の福岡県においては全国に先駆けてワンヘルス推進基本条例を制定する等、ワンヘルスに関する関心が高かった。これを受け、藏内大会長・組織委員長を中心として福岡県、福岡市にワンヘルスをテーマとする本大会に対する支援を要請し、本大会を福岡県、福岡市との共催事業と位置付けていただく等、物心両面からの手厚い支援を得た。

2 開催概要と成果

(1) 第44回FAVA代表者会議と関連行事

第21回FAVA大会に先立って、11月9日に第44回FAVA代表者会議が、ヒルトン福岡シーホーク34階タ



写真2 クアザ前 FAVA 会長から藏内新 FAVA 会長への引継書の手交



写真3 FAVA ワンヘルス福岡オフィスの設立に関する覚書の調印式

ワーベントハウスにて開催された。会議には FAVA 執行部役員（日本、タイ、マレーシア、インドネシア、ミャンマー、フィリピンで構成）、加盟国 12 カ国代表者・同伴者（対面参加 10 カ国：日本、韓国、台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、スリランカ、アメリカ、ネパール、ベトナム、ウェブ参加 2 カ国：ミャンマー、マレーシア）及びオブザーバとして世界獣医師会会長らが出席した。

代表者会議の主な内容は①直近 1 年間の活動報告、②会長交代及び新執行部の就任（写真 2）、③今後の FAVA 大会開催国の選定、④ワンヘルス福岡オフィス開設の記念式典等であった。②において藏内会長が FAVA 新会長に就任し、就任挨拶と新執行部の選任を行った。任期は 2024 年までの 2 年間である。③では 2024 年に韓国、2026 年にフィリピンで大会が開催されることが決定し、2024 年の大会を主催する大韓獣医師会のホ会長が、FAVA 次期会長として新たに執行部へ加わることになった。④に関連して、会場を福岡市天神のアクロス福岡に移して FAVA ワンヘルス福岡オフィスの設立に関する福岡県との覚書調印が行われ（写真 3）、FAVA と福岡



写真4 四王寺ワンヘルスの森（福岡県糟屋郡）での記念植樹

県との協力関係が築かれることとなった。

翌 11 月 10 日には代表者会議に出席した代表者とその同伴者ら約 50 名が参加し、エクスカージョンツアーが行われた。訪問先は①福岡夜間救急動物病院、②福岡県立四王寺県民の森、③太宰府天満宮、④九州国立博物館、⑤レールキッチンチクゴであった。四王寺ワンヘルスの森では記念植樹が行われた（写真 4）。

藏内勇夫 FAVA 会長就任挨拶

FAVA の新会長に選任されました日本獣医師会の藏内勇夫でございます。クアザ会長の後を受けて、FAVA の会長という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いであります。就任にあたっての所信も含めて一言ご挨拶申し上げます。

今後、私は新会長として、これまでのクアザ会長のイニシアティブで強化されてきた活動を継承するとともに、一層メンバー国の皆様と連携しつつ、積極的に新しい分野の活動にも取り組んでまいります。

明後日から始まる FAVA 大会については、日本獣医師会として全力をあげて準備してきましたが、まずはこの大会の成功に向けて全力を尽くします。そして大会終了後は、新設される FAVA ワンヘルス福岡オフィスを拠点に、大会の成果であるワンヘルスのアジア・オセアニア地域における普及と実践に尽力してまいります。

さらに、クアザ会長が策定されたストラテジックプラン（戦略計画）に基づく 6 項目のアクションプランについては、FAVA 加盟各国獣医師会における活動の調査と支援を行い、その活動の成果がアジア・オセアニア地域の獣医技術の向上につながるように、会長としての責

務を果たします。

クアザ会長はFAOとの連携の下に、AMR対策を強化してこられました。私も後任の会長として、FAO等の国際機関との連携を一層強化してまいります。

日本には国際機関の事務局として、国際獣疫事務局(OIE)のアジア太平洋地域事務所や、獣医学教育の改革に取り組むアジア獣医学教育協会(AAVS)の事務局が設置されていますので、これらの国際機関とも連携を図り、アジアにおける家畜伝染病の防疫や生産病対策の向上、アジア地域における獣医療の実態を踏まえた獣医学教育の改善等の取組に尽力してまいります。

以上、FAVAの会長就任に当たり、今後の取組方針について若干触れさせていただきました。この代表者会議が、アジア・オセアニア地域をはじめ世界各国におけるワンヘルスアプローチに基づく活動や、獣医師の知識・技術の向上に貢献する契機になることを期待いたします。私の会長就任の挨拶といたします。

(2) 第21回FAVA大会

ア 開催場所、開催期間、開催テーマ：

開催場所：ヒルトン福岡シーホーク

(福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3)

開催期間：2022年11月11日(金)～13日(日)

開催テーマ：アジアからのOne Healthアプローチ

副題：動物と人の健康は一つ、それは地球の願い

“The One Health approach from Asia”

— Animal and human health are one.

Such is the earth's wish. —

イ 主催、共催、後援：

主催：公益社団法人 日本獣医師会、
アジア獣医師会連合 (FAVA)

共催：福岡県、福岡市

後援：農林水産省、環境省、厚生労働省、
文部科学省、日本学会会議、
公益社団法人 日本医師会、
公益社団法人 日本獣医学会、
世界獣医師会 (WVA)

ウ 協賛：

パッケージスポンサー (11社：申込み順)
千寿製薬株式会社、日本全薬工業株式会社、
住友ファーマアニマルヘルス株式会社、
株式会社安田システムサービス、
富士フイルム VET システムズ株式会社、
ジャベル株式会社、東亜薬品工業株式会社、
共立製薬株式会社、
ロイヤルカナシヤボン合同会社、
ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン
株式会社、株式会社クレディセゾン

出展協賛等：49社、抄録広告：4社

ランチョンセミナー：9社、スタンプラリー：15社

エ 参加国、参加人数

20カ国 (日本を含む) から、2,433人が参加した。

国内外	種別	来場者数
国内	登録者	1,526
	招待 (来賓、講師等)	192
	共催者・協賛者	169
	開催関係者 (スタッフ等)	342
	合計	2,229
国外	登録者	118
	招待 (FAVA関係者、講師等)	86
	合計	204
	総計	2,433

参加国 (20カ国)

日本、大韓民国、台湾、モンゴル、ベトナム、
タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、
インドネシア、インド、スリランカ、
バングラディシュ、ネパール、イスラエル、
キルギス、英国、スペイン、アメリカ合衆国、
オーストラリア (財務省貿易統計国名符号順)

オ 会議の内容

開会式と基調講演

11月11日午前10時から、ヒルトン福岡シーホークの第1・2会場で開会式が開催された。

まず、藏内勇夫大会長 (FAVA会長、日本獣医師会会長) から主催者挨拶が行われた (写真5)。

藏内勇夫大会長開会挨拶

私は、日本獣医師会会長の藏内勇夫でございます。一昨日開催されましたアジア獣医師会連合 (FAVA) の代表者会議においてFAVA会長に就任いたしました。

本日は、アジア獣医師会連合と日本獣医師会の主催による第21回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大



写真5 藏内大会長主催者挨拶

会の開会式に、岸田文雄内閣総理大臣及び林 芳正外務大臣からはビデオメッセージを頂戴し、また、ラファエル・ラガンズ世界獣医師会（WVA）会長、熊谷法夫農林水産省大臣官房審議官、細川真宏環境省自然環境局総務課長、三木 朗厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課長、地元福岡県からは服部誠太郎福岡県知事、高島宗一郎福岡市長、桐明和久福岡県議会議員、伊藤嘉人福岡市議会議員をはじめ多数のご来賓をお迎えし、このように晴れやかな場でFAVA大会を挙げていくことに対し、心から感謝申し上げます。

世界保健機関（WHO）は、自然災害を感染症などの生物災害、台風などの気象災害、地震などの地質災害の三つに区分し、それぞれの災害に対する事前の備えを求めています。その生物災害として世界中をパンデミックに陥れた新型コロナウイルス感染症を乗り越えてこの大会が開催されることにつきまして、大会参加者の皆様、ご協力いただいた国際機関、関係省庁、関係団体、協賛企業の皆様、地方獣医師会の皆様、そしてアジア獣医師会連合加盟各国獣医師会及び共催いただいた福岡県、福岡市の皆様に厚くお礼を申し上げます。

本大会の開会式に臨み、私の胸中に去来するのは、1995年にアジア地域で初めてわが国の横浜市で開催された世界獣医師会（WVA）とアジア獣医師会連合（FAVA）の合同大会であります。この年の1月17日、わが国で未曾有の地質災害となった阪神淡路大震災が発生しました。当時福岡県獣医師会会長の職にあった私にも、発災後国内外から「世界大会の開催は大丈夫か、日本経済は大丈夫なのか。」との声が多く寄せられたことを記憶しています。

しかしこの時、日本の獣医師達は関係者の皆様の力を結集して逆境を乗り越え、130年を超える世界獣医師会の歴史の中でかつてないほど多くの参加者を得て、大会を大成功に導きました。

それから四半世紀を経た今、未曾有の生物災害となったコロナ禍の中にあっても、アジアをはじめ世界中から約2千名の参加者をお迎えして、私達は再び国際的な大事業を成功させ、関係者の皆様、そして国民の皆様とともに、その力をアジアに、そして世界に示そうとしています。本日から3日間のFAVA大会が大成功を収めることができますよう、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

本大会のテーマは「アジアからのワンヘルスアプローチ～動物と人との健康は一つ。それは地球の願い～」です。このたびの新型コロナウイルス感染症も動物由来の新興感染症とされています。このような人獣共通感染症や薬剤耐性（AMR）への対策に

おいては、人及び動物の健康並びに野生動物を含む環境の保全を一体的に捉え、獣医師、医師及び環境分野の研究者等が連携して活動するワンヘルスの概念の実践が一層求められています。このような観点から、3日間にわたる特別シンポジウムにおいては、人獣共通感染症、薬剤耐性（AMR）対策、各分野や関係機関におけるワンヘルスの取組、そして「アジアワンヘルス福岡宣言2022」の採択・調印に至るワンヘルス・ストーリーを展開いたします。

この福岡の地では、6年前の2016年に「第2回世界獣医師会－世界医師会ワンヘルスに関する国際会議」が開催され、世界におけるワンヘルスの実践の礎となる「福岡宣言」を採択し世界に向けて発信しました。さらに福岡県では、わが国で初めてとなる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を定め、服部知事を中心として積極的な取組が行われています。私はワンヘルスの先進地である福岡県で開催される本大会の成果を踏まえ、ワンヘルスの重要性をアジアに、そして世界に、再び発信して参ります。何卒ご支援を賜りますようお願いいたします。

私がアジア獣医師会連合の会長を務めるに当たって、FAVA加盟各国の獣医師会、そして地元福岡県、福岡市、関係者の皆様方の全面的なご協力を得て、「FAVAワンヘルス福岡事務所」を設置することが決定されました。タイのバンコク事務所との密接な連携の下に、WOAH、FAO、国連等とも連携し、ワンヘルスをはじめFAVA戦略計画の実現に向け、私は積極的にリーダーシップを発揮し、アジア各国の獣医師の力を結集して実践活動に取り組んで参る覚悟です。

最後に、いまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中であっても、本日もご来場いただいた多くの皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、本大会の開催にご協力いただいた関係者の皆様方に改めて心から感謝申し上げます、私の開会の挨拶といたします。

続いてご来賓のご挨拶として、まず、岸田文雄首相からのビデオメッセージが放映された（写真6）。

岸田首相挨拶

内閣総理大臣の岸田文雄です。

本日は、第21回アジア獣医師会連合大会が、アジア・オセアニア地域をはじめ、世界各国から多数の獣医師や医師など関係者のご参加を得て、盛大に開催され、誠にありがとうございます。

本大会のテーマは、「アジアからのワンヘルスアプローチ」と伺っていますが、開催地の福岡県は、わが国で初めてとなる福岡県ワンヘルス推進基本条



写真6 岸田文雄首相からのビデオメッセージ

例を定め、県民が一丸となってワンヘルス活動を推進する先進地であります。

パンデミックとして世界中に多大なる影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、動物由来の人獣共通感染症であり、その予防やまん延防止のためには、ワンヘルスの実践に基づく感染症対策が必要とされています。日本政府といたしましても、次の感染症の危機に備え、福岡県の取組も参考にしつつ、ワンヘルスアプローチに基づく感染症対策の強化に取り組んでまいります。

このたび、日本獣医師会の藏内勇夫会長がアジア獣医師会連合の会長に就任されたと伺いました。藏内会長が力強いリーダーシップを発揮され、本大会の成功を機に、ワンヘルスの実践活動の重要性を日本からアジアへさらに世界へ向けて発信されるよう、大いに期待をしております。

この大会がポストコロナ時代における日常生活や経済活動の再出発の契機となりますとともに、ご参会の皆様方のさらなるご健勝をご祈念申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

次に、ラファエル・ラガンズ世界獣医師会会長、クアザ・ニザムディン FAVA 副会長（前会長）から挨拶が行われた（写真7、8）。

ラファエル・ラガンズ世界獣医師会会長挨拶

おはようございます。この度は第21回 FAVA 大会 2022 の開会式でご挨拶できることを光栄に存じます。

今回のテーマは「アジアからのワンヘルスアプローチ」です。このテーマとは、人類の60%以上が住むこの大陸において、人や動物、生態系の健康への脅威に立ち向かうために必要なテーマです。

福岡県はこのコミットメントからワンヘルスアプローチの推進を行っており、この会議のための理想的な舞台です。それは次のようなマイルストーンで



写真7 ラファエル・ラガンズ世界獣医師会会長挨拶

示されております。

第2回ワンヘルス国際会議は、北九州市において2016年に開催され、「福岡宣言」が採択されました。その後、福岡県では、ワンヘルス推進基本条例が制定され、ワンヘルスに関連するさまざまな活動を展開されています。さらに、福岡ではワンヘルス国際フォーラムが開催されました。そして今般、FAVA ワンヘルス福岡オフィスが設立される運びとなり、一昨日、署名、調印に至りました。

世界獣医師会の使命は、政策提言や教育、パートナーシップを通じて、獣医療のためのグローバルなリーダーシップを発揮し、動物の健康と福祉、公衆衛生を推進することにあります。

私たちの組織は、戦略的優先事項として、評議会、委員会、作業部会、会員組織、主要なパートナーそれぞれの立場でワンヘルスにしっかりと取り組んでいます。

WVA は FAVA やすべての獣医師会と協力して、ワンヘルスアプローチに貢献し、ワンヘルスの実践に向けた取組を強化し続けています。今こそ新興の人獣共通感染症やパンデミック、またこれまで対応されていなかった感染症や食の安全・安心、薬剤耐性菌問題、環境、そして健康、その他多くの事柄について、具体的な行動を起こすべきです。私たちはワンヘルスに向けた取組を強化することを忘れてはなりません。

九州地域は、アジアと世界の重要な結節点です。そして、歴史的にも日本文化の発展に欠かせない役割を担ってまいりました。この地域は、ワンヘルス文化の発展と定着に欠かせない存在になると確信しております。

今回の皆様の会議が実り多きものとなることを祈念しまして、私からのご挨拶といたします。ありがとうございました。



写真8 クアザ・ニザムディン FAVA 副会長挨拶

クアザ・ニザムディン・ハッサン・ニザム FAVA 副会長（前会長）挨拶

皆様 FAVA の新会長に選出されました藏内勇夫先生、WVA 会長のラファエル・ラガンズ先生はじめ、ご来賓の皆様、本日はご臨席賜り誠にありがとうございます。

また、このような挨拶の機会を設けていただきましたことを感謝申し上げます。おかげさまで福岡にてこのような華やかな開会式を迎えることができました。

FAVA は、パンデミック下において極めて大変な時期を経験しました。その中でも何とか多くの活動を行ってまいりましたのも、このメンバーのご協力のおかげです。

FAVA は 1978 年、フィリピンのマニラで Teodulo M. Topacio, Jr. 博士が中心となって、マレーシア、インドネシア、日本、台湾、韓国の 5 カ国の獣医師会とともに設立いたしました。まさにこれは歴史的な出来事であり、先人たちのこの努力のおかげで、私たちは 44 年間順調に歩みを進められております。この 44 年間で、24 カ国獣医師会、アジア・オセアニア地域、そして、二つの提携会員、また一つの準会員を有するまでに成長いたしました。現在では 10 万人以上の獣医師が参加しております。

アジアは世界で最も大きな大陸の一つです。私たちは知識と技術を高めるため、あるいはさまざまな面でこの分野の最新の動向とテクノロジーを理解するため、2 年に 1 度大会を開催し、獣医学と家畜生産における私たちの能力向上に努めています。

FAVA は非政府組織です。ワンヘルスアプローチの下、独立した立場で、動物と人間双方の生活に変化をもたらす獣医師の持つさまざまな能力を社会のために活かす大変重要な役割を果たすことができる機関となりました。

FAVA の対応分野は、人獣共通感染症といった越境性の動物の病気、薬剤耐性菌対策、また、獣医学

教育、動物福祉、家畜生産性の向上、食品安全にまで多岐に渡ります。これらのさまざまな課題に取り組むために、ワンヘルスアプローチを通して、ほかの国際組織と相互に補完的役割を果たしています。

これらの課題に沿って、疾病の予防と制御、獣医学教育と獣医学術の研究、動物福祉、食の安全と安心、医薬品の管理、協力のためのワンヘルスアプローチに関する戦略計画を作成いたしました。そして、2021 年から 2025 年までの実行計画を審議し、宣言いたしました。加えて、FAVA は、国連食糧農業機関アジア太平洋地域と連携し、薬剤耐性に取り組むための FAVA 戦略計画 2021～2025 年を策定いたしました。これらの取組はすべて、各国の獣医師会の会員が卓越した獣医療サービスを提供するのに役立つことでしょう。

このたび、第 21 回 FAVA 大会が福岡で開催されることをお祝い申し上げます。開催を大変うれしく思い、感謝しております。今回の大会では、獣医学の分野で関連性のある興味深いトピックが発表され、議論されることと存じます。この取組から私たちは多くのことを得られると確信しております。

さらに、大変興味深い重要な貢献の一つに、福岡に FAVA ワンヘルスオフィスが開設されることがあげられます。こちらは藏内勇夫先生が率いる日本獣医師会が、地元の支援を受けて実現したものです。これは、病気や薬剤耐性菌対策など多くの課題が展開している今、まさにタイムリーで重要な事柄です。FAVA においてワンヘルスの認知度を高めるために日本獣医師会による貢献は非常に有効であり、アジア・オセアニア地域の会員に利益をもたらすでしょう。私は、このワンヘルスオフィスがそのために必要なインパクトを未来へ与えることができると確信しています。

あらためて、第 21 回 FAVA 大会の成功を祈念しております。

次に、林 芳正外務大臣からのビデオメッセージが放映された（写真 9）。

林 芳正外務大臣挨拶

皆さん、こんにちは。外務大臣の林 芳正でございます。

このたびはアジア獣医師連合（FAVA）の第 21 回目の大会が藏内大会長の主催の下で、関係者の皆様のご尽力によって盛大に開かれますことを心より喜び申し上げます。

近年になって人や物の動きが本当にグローバル化してきており、人と動物の共通の感染症、これが経



写真9 林 芳正外務大臣ビデオメッセージ

済に大きな影響を及ぼすようになってまいりました。BSE、鳥インフルエンザ、そして最近のこの新型コロナウイルス、どれ一つをとってみましても本当に大きな影響があるわけがございます。そうした中で改めて、人と動物を分けずに、人はむしろ動物の一員であるという意識を強く持つわけでございますが、この大会が「アジアからのワンヘルスアプローチ～動物と人の健康は一つ、それは地球の願い～」をテーマに、アジアとのかけ橋となる福岡の地で開催されるということは大変に時宜を得ており、タイムリーな大会であると思っております。

外務大臣といたしましてもこの新型コロナ対応をはじめ、気候変動、いろいろな地球規模的な課題がございます。こういったものにしっかりと、さまざまな国と協調関係を築き上げながら取り組んでいかなければならないと思っておりますし、日本が世界をリードしていくんだという意気込みを持って、こうしたことに取り組んでいく決意でございます。

この2年ほどはまさに新型コロナの影響で、こうやって直接皆さんが集まってフェース・トゥ・フェースで会合することがなかなかできない時期が続きましたけれども、この福岡の地で皆さんとお会いできる喜びを分かち合いながら、この3日間のFAVAの大会が実り多きものになりますように心からお祈りをして、お祝いのご挨拶にしたいと思いません。誠にありがとうございました。

さらに、開催地の自治体である服部誠太郎福岡県知事、高島宗一郎福岡市長から挨拶が行われた（写真10、11）。

服部誠太郎福岡県知事挨拶

皆様、おはようございます。福岡県知事の服部誠太郎でございます。

第21回アジア獣医師会連合大会が、ここ福岡県福岡市の地において、このように盛大に開催をされ



写真10 服部誠太郎福岡県知事挨拶

ますことを、ご出席の高島宗一郎福岡市長とともに、共催者として大変うれしく思っております。世界各地からご参加の皆様方、ようこそ福岡県においでくださいました。福岡県民を代表し、心より歓迎を申し上げます。また、日本獣医師会会長でいらっしゃるしまして、一昨日、このFAVAの会長にご就任をされました藏内勇夫会長をはじめ、本大会の開催にご尽力を賜りました皆様方に深く敬意を表し、厚くお礼を申し上げます。

先ほどからお話もあっておりますが、私は、この福岡県政を進めるに当たってのチャレンジの一つにワンヘルスの推進を掲げておりまして、この福岡県をワンヘルスの世界的な先進地にしていきたいという希望を持っております。

このような中で、今回、アジアからのワンヘルスアプローチをテーマとしたこのFAVA大会が、獣医学、医学、環境など各分野の専門家の皆様一堂に会する機会として、この福岡の地で開催をされますことを大変意義深いものであると考えておるところでございます。

先ほど藏内会長からもご紹介がありましたが、福岡県は日本で唯一、ワンヘルスの推進に関する条例を持っております。そして、この条例に基づき、さまざまな取組を進めております。幾つかご紹介をいたしますと、まず、本県の保健環境研究所というものがございます。ここは、人の健康と環境の保全に関する調査研究を行うところではありますが、この研究所を移転し、充実させてまいります。そして、動物の保健衛生を一括して担う動物保健衛生所というものを日本で初めて開設いたします。この二つが連携するワンヘルスセンターというものを福岡県のみやま市に整備する計画でございます。

また、国立感染症研究所のサテライトとして、アジア新興・人獣共通感染症センターというものをぜひ九州に、できればこの福岡県に開設いただきたいということを今、政府に対して強く働きかけを行っ

ているところでございます。

そして、これも先ほどからお話がございますが、一昨日、FAVA ワンヘルス福岡オフィスが、この福岡市のアクロス福岡に開設されるという決定をいただきました。アジアのみならず、世界におけるワンヘルスの活動をリードする、その拠点となるこのFAVA ワンヘルス福岡オフィスと連携を図り、これからさらにこのワンヘルスの取組を進めてまいりたいと考えております。

また、本県では一昨年、ワンヘルスをテーマといたします“One Health”国際フォーラムというものを開催いたしております。人獣共通感染症に対しますワンヘルスアプローチによる解決を目指して、世界トップクラスの専門家の皆様方が集い、そしてさまざまな議論をしていただくフォーラムでございます。今年は、明日から、ここヒルトンホテルにおいて開催をする予定でございます。ぜひ、皆様方にもご参加をいただければと思う次第でございます。

結びになりますが、このFAVA大会が実り多きものとなりますことを、そして、本日ご出席の皆様方のご健勝とさらなるご活躍をお祈り申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

高島福岡市長挨拶

皆様、こんにちは。福岡市長の高島と申します。

第21回アジア獣医師会連合大会の開催、誠にありがとうございます。そして、藏内会長をはじめご参加の獣医師の皆様方には、日頃から、動物の健康・福祉を守るとともに、人の健康を守る公衆衛生の分野におきましても多大なるご尽力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げたいと存じます。そして、藏内会長は、FAVA 会長へのご就任誠におめでとうございます。そして、国内外から多くの方に福岡へお越しいただきましたこと、心から皆様を大歓迎いたしたいと存じます。

さて、福岡市はその地理的な特性から、アジアの玄関口として2000年以上にわたって、アジア、そして世界との交流によって発展してきた都市でございます。このグローバルゲートウェイの都市・福岡にとって、新型コロナウイルス感染症をはじめとした新興感染症、また、人獣共通感染症対策というものは大きな課題でございますが、課題はチャンスでもあります。都市の新たな強みとして、現在、福岡市では、世界に先駆けた感染症対応シティーということで、ビル、ホテルなどにおいて、換気、それから非接触などウィズコロナに対応した新しい建築へと建て替えを進めてございます。新型コロナが終



写真11 高島宗一郎福岡市長挨拶

息をした後も、次の新しい感染症の可能性が十分に考えられる中で、感染症に関する学術的に深い知見をお持ちの国内外の獣医師会の皆様方の大会が福岡市において開催されますことは、大変意義深いものと考えてございます。

また、ワンヘルスの理念は、人と環境と都市活力の調和が取れたアジアのリーダー都市を目指す福岡市においても大変重要であります。FAVAの日本事務所が福岡市内に開設することも決まりまして、今後とも藏内会長、そしてまた、服部知事とも連携をしながら、ワンヘルスの取組を推進してまいります。

また、明日からは、ワンヘルスの実践の場といたしましてワンヘルスパークをオープンいたします。福岡市では、今、スタートアップの支援をしております。迷子、災害、盗難、事故等に遭った愛玩動物への的確な対応のために、まずは福岡市としてマイクロチップの装着に取り組み、そして推奨している次第でございます。今日の会場の外にありますブースでもご紹介をしていますが、スタートアップ企業と連携をして、犬の鼻紋認証アプリを使う実証実験にも取り組んでいるところでございます。

結びになりますが、今日はせっかく福岡にお越しいただきました。今、福岡の街は魚が大変おいしい時季でございます。また、屋台というものもこの福岡市にはたくさんございます。ぜひこの場で素晴らしい議論を展開し、また夜はおいしい食べ物とともに幅広い交流を深めていただければと思います。

この大会を通して各国の連携が強化され、そして、ワンヘルスの実践がさらに進められることを期待しますとともに、本日ご参加の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

続いて、ご来賓の紹介が行われて、開会式を終了し、記念講演に移った。記念講演は国立国際医療研究センター国際ウイルス感染症研究センター長の



写真12 記念講演 国立国際医療研究センター河岡義裕氏

河岡義裕氏によって、「動物感染症の制圧を目指して」と題してインフルエンザウイルス、エボラウイルス、新型コロナウイルスの研究に関する最先端の知見が紹介された(写真12)。

学術プログラム

学術プログラムにおける中心的なプログラムとして、下記のとおり、特別シンポジウム「アジアからのワンヘルスアプローチを考える」が3日間を通じて第1会場で開催され、ワンヘルスに関する4つの話題が取り上げられ、最終日午後に参加した会員各国の代表者が出席して取りまとめが行われた(「ワンヘルス福岡宣言」の採択と閉会を参照)。

特別シンポジウム「アジアからのワンヘルスアプローチ」における各セッションのテーマ(写真13,14)

- Part I 「アジアからのワンヘルスアプローチを考える〈COVID-19とワンヘルス〉」
- Part II 「アジアからのワンヘルスアプローチを考える〈人と動物の共通感染症とワンヘルス〉」
- Part III 「アジアからのワンヘルスアプローチを考える〈薬剤耐性(AMR)とワンヘルス〉」
- Part IV 「アジアからのワンヘルスアプローチを考える〈各分野及び機関におけるワンヘルスの取組とその期待〉」
- Part V まとめ

上記特別シンポジウム以外に、米国獣医師会ローリー・テラー会長が座長を務める特別招待講演として①ハワイ大学におけるワンヘルスの取組(ハワイ大学 サンドラ・P・チャン氏)、②アメリカ



写真13 特別シンポジウム Part IV 横倉義武日本医師会名誉会長の講演



写真14 特別シンポジウム Part IV 福岡県地元高校生の講演

カにおけるワンヘルス教育(ワンヘルスレスズンズデボラ・トムソン氏)の2題が講演されたほか、以下の10セッションの招待講演が行われた(写真15~18)。

招待講演における各セッションのテーマ

小動物診療の最新技術(①小動物の心臓外科の進展、②小動物の腫瘍療法の最前線、③小動物獣医療のmicroRNAの診断的応用、④小動物の痒みに対する診断アプローチ、⑤小動物の慢性腎臓病の薬物療法)

野生動物/展示動物

動物福祉(各国における動物福祉法制)

畜産分野におけるICT(情報通信技術)及びAI(人工知能)の活用と展望

馬の細菌性感染症(馬科学、獣医療における最近の話題)

家畜伝染病対策(豚熱、アフリカ豚熱、アフリカ馬疫)

食中毒とその制御(アジア地域における重要な食中毒とその制御について)

環境問題(海洋プラスチック汚染の現状と対策)



写真15 特別招待講演 ハワイ大学におけるワンヘルスの取組



写真18 招待講演 動物福祉

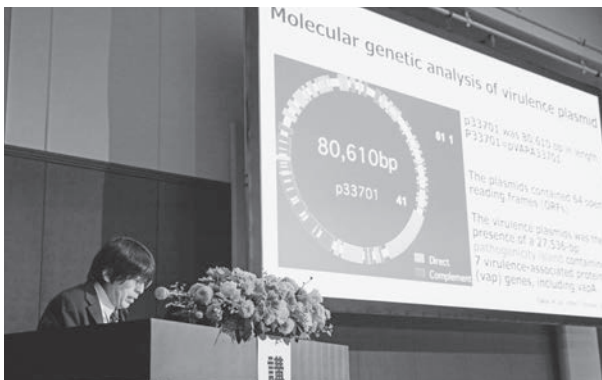


写真16 招待講演 馬の細菌性感染症



写真19 日本獣医師会獣医学術学会年次大会 日本医師会・日本獣医師会・厚生労働省による連携シンポジウム

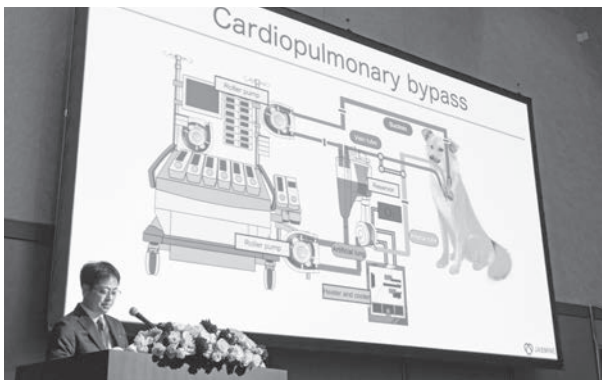


写真17 招待講演 小動物診療の最新技術

生産病に関する乳牛の最新知見（乳牛の周産期の飼養管理と疾病管理の最新知見）

獣医学教育（獣医学教育環境のさらなる整備充実に向けて）

また、一般口演として国内外から66演題（口頭33，ポスター33）が発表された。

その他のプログラム

第21回FAVA大会とあわせて、第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催された。

学会年次大会では、日本産業動物獣医学会、日本

小動物獣医学会及び日本獣医公衆衛生学会の三学会による地区学会長賞受賞講演、獣医学術奨励賞受賞者記念講演、シンポジウムや教育講演等の特別企画、日本医師会・日本獣医師会・厚生労働省による連携シンポジウム「COVID-19時代をペットとともに乗り切る」が開催され、一般口演・研究発表も行われた（写真19）。

また、11月11日午後には、FAVAによる抗菌薬啓発週間に係る行事として「AMRに対するFAVAの戦いの鍵としてのアジアでのワンヘルスアプローチ」と題するシンポジウムが開催された。

福岡県は11月12日の午前に福岡県農林水産祭り式典、午後には“One Health”国際フォーラム2022+FAVAの開会式・基調講演・県民講座を、11月13日には同フォーラムの分科会を本大会会場において開催した（写真20）。

11月12日午後に行事には一般の福岡県民等1,203名が出席した。

なお、会期中には福岡県等のご協力を得て伝統工芸品の展示、八女茶の試飲（茶道体験）、飾花等が行われ、会場に花を添えた。



写真 20 福岡県“One Health”国際フォーラムの県民講座に出演した坂上 忍氏、藏内会長、服部知事



写真 22 太宰府天満宮 神楽（浦安の舞）



写真 21 ウェルカムパーティー、佐藤 繁日本産業動物獣医学会会長による乾杯

社交プログラム（ウェルカムパーティー、ガラディナー）

大会の社交プログラムとして、11月11日の夕刻にウェルカムパーティーが、11月12日の夕刻にガラディナー（本大会のメインとなるディナーパーティー）が開催された。

ウェルカムパーティーでは、藏内大会長からの挨拶に続いて、佐藤 繁日本産業動物獣医学会会長のご発声により乾杯が行われた（写真 21）。歓談の間に2023年4月に開催予定の第38回世界獣医師会大会開催国（台湾）、2023年11月に開催予定の第22回FAVA大会開催国（マレーシア）の代表者からそれぞれの大会の紹介と両大会への歓迎の意が示された。

パーティーは展示会場で開催され、主催者が用意した飲食物の他に、福岡県、展示関係企業からそれぞれ酒肴がふるまわれた。

日本及び各国からの参加者は、再会し、また新しく面識を得たことを喜び、打ち解けて歓談していた。

ガラディナーでは冒頭に太宰府天満宮の神楽（浦安の舞）が演じられ、荘厳な雰囲気の中で幕を開けた（写真 22）。

まず、藏内大会長から主催者挨拶が行われた（写真 23）。

ガラディナー 藏内勇夫大会長挨拶

本大会は、「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマに、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催し、アジア・オセアニアなど世界中から多くの関係者並びに全国各地からご参集いただきました獣医師会の皆様、医師会の皆様、行政関係者の皆様など大勢の皆様方とともに、人と動物と環境の未来にとって重要な国際会議を開催できましたこと、主催者として大変うれしく思います。

本日のガラディナーには、東京から麻生太郎自民党副総裁、林芳正外務大臣、地元から服部誠太郎福岡県知事、そして現在選挙中にもかかわらず高島宗一郎福岡市長にもお越しいただいております。

去る11月9日に、「アジア獣医師会連合（FAVA）日本事務所」の設立に関する覚書の調印式を行いました。

服部誠太郎福岡県知事から、事務所の設置場所として「アクロス福岡」をご提案いただき、その名称をFAVAワンヘルス福岡オフィスと決めることができました。

「アクロス福岡」がこれからのワンヘルスの拠点となります。

今後は、福岡県、福岡市そして地元経済界とも協議を重ね、来年度にも「FAVAワンヘルス福岡オフィス」をオープンしたいと考えております。

本日のガラディナーは、「太宰府天満宮の神楽」、「九州交響楽団の弦楽四重奏」と「林 摩耶さんによるオペラストージ」をご用意しております。

今回、福岡県の多大なるご協力により、「福岡県産の美味しい農産物やお酒」をたくさん提供していただきました。

美味しい料理を堪能していただき、福岡のお酒を



写真 23 藏内大会長主催者挨拶

存分にお召し上がりください。

続いてご来賓として、麻生太郎自由民主党副総裁・自由民主党獣医師問題議員連盟会長から来賓挨拶が行われた（写真 24）。

麻生太郎自由民主党獣医師問題議員連盟会長挨拶

麻生太郎です。今、ご紹介がありましたように、獣医師問題議員連盟というものを国会議員でつくって、いわゆる獣医師が抱えておりますさまざまな問題をサポートすべく努力をしているところであります。

このたび、数えて第 21 回になりますこのアジア獣医師会連合の会合が、アジアに最も開かれた街、アジアに最も近い街、この福岡で開かれるということで、お祝い方々参上させていただいた次第です。

Well, gentlemen, it seems to me that quite a number of foreign guests came to here all the way from various parts of Asia.

Well, all in Japanese, but You may hear beautiful interpretation later instead of to hearing my lousy English.

Congratulations.

このアジア・オセアニア地域をはじめ、世界各国のいわゆるワンヘルス活動というものについて、いろいろご理解をいただきつつあるところだとは思いますが、皆さんの周りで、たとえば動物と普段から、猫であろうと犬であろうと、ペットとして一緒に生活しておられる方が多いと思いますが、年を取っていよいよ病院に入らなければいけないことになったときに、そのペットはどうされるんですか。ペットと一緒に病院に入れますか。

ワンヘルスというものを考えるときに、お医者さんに手を握ってもらいより、犬を触っていたり猫を触っていたりしたほうが、よっぽど人間の精神衛生上、患者の精神衛生上もいいとは思いませんか。ワンヘルスとは身近な例でいえばそういうことです。



写真 24 麻生太郎自由民主党獣医師問題議員連盟会長

今日のこの大会を開かれた藏内会長は、日本獣医師会の会長ですけれども、このたびアジア獣医師会の会長になられたそうで、心からお祝いを申し上げます。同時にご活躍を心から期待するものであります。

藏内会長のリーダーシップで、この大会は、アジアからのワンヘルスアプローチということがテーマになっておりますけれども、ぜひこういった問題を身近な、自分の問題として考えていただければと思います。そう難しい話ではないんですが、なかなかこの話は、長いことわれわれがやってきても、難しい問題をいっぱい抱えております。レギュレーション、規制の話に限らず、いろいろな人間のこれまでの問題として、非常に大事な話ですけれども、現実問題としてはいろいろな規制があって難しい。したがってワンヘルスが進まないということになっておりますので、ぜひこういった問題を今後とも、これだけ大勢の皆さん方にご理解いただいて、確実に前に進めていただけるように心から期待をしております。

FAVA のこの大会がポストコロナといわれる今の時代にきわめて有意義な意味を持つ、いわゆるアクティビティー—運動、活動だと思っておりますけれども、ぜひ皆様方のさらなるご理解を得て、この大会を契機としてワンヘルスに対するアプローチが発展をしていくことを心から期待してご挨拶に代えたいと思います。

Thank you very much for your patience.
Thank you.

続いて林 芳正外務大臣（写真 25）、服部誠太郎福岡県知事（写真 26）、高島宗一郎福岡市長（写真 27）からご挨拶をいただいた。

挨拶の後、鏡開きが行われ、さらに日本医師会角田 徹副会長のご発声により乾杯が行われた（写真 28、29）。

アトラクションとして、林 摩耶氏と九州交響楽団の方々の弦楽四重奏によるオペラステージが行わ



写真 25 林 芳正外務大臣



写真 29 日本医師会角田副会長による乾杯



写真 26 服部誠太郎福岡県知事



写真 30 林 摩耶氏, 九州交響楽団オペラステージ



写真 27 高島宗一郎福岡市長



写真 31 大韓獣医師会 ホ会長と藏内会長



写真 28 鏡開き

れ、出席者は和やかな雰囲気の中で歓談に興じていた(写真30)。

最後に2024年に開催される第23回FAVA大会の開催地に決定し、FAVA副会長(次期会長)に就任した大韓獣医師会ホ・ジュヒョン会長から挨拶が行われ、閉会した(写真31)。

「ワンヘルス福岡宣言」の採択と閉会

11月13日午後、3日間にわたり開催された特別シンポジウム「アジアからのワンヘルスアプローチを考える」の取りまとめが行われた。

まず、FAVAバンコク事務所のアチャリヤ・サイ



写真 32 FAVA バンコク事務所アチャリヤ氏による取りまとめ



写真 33 「アジアワンヘルス福岡宣言 2022」を読み上げる 藏内大会長

2022 年 11 月 13 日

「アジアワンヘルス福岡宣言 2022」

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指している。

現在、世界では、COVID-19、新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など人と動物の共通・新興感染症の国境を越えた発生や、薬剤耐性（AMR）が大きな課題となっている。このようなことから、FAVA 加盟国は、連携・協力してワンヘルスを実践しなければならない。

我々 FAVA 加盟獣医師会及び所属する獣医師は、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催された第 21 回アジア獣医師会連合（FAVA）大会の成果を踏まえ、「FAVA 戦略プラン 2021-2025」に基づくワンヘルスアプローチを一層発展させ、その実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期するため、感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める。
2. 薬剤耐性菌が医療と獣医療において重大な脅威となっていることから、抗菌剤の慎重かつ適正な使用を徹底し、薬剤耐性（AMR）対策を推進する。
3. 動物と人が共生する社会を構築するため、生物多様性の維持や地球環境の保全を積極的に推進する。
4. 獣医学教育の更なる整備及びワンヘルスアプローチによる国際連携により、WOAH（OIE）

- Day One Competencies（獣医師が具備すべき知識・技能・態度）を有する獣医師の育成に取り組む。
5. 医療関係団体、行政機関、市民団体及び大学、WVA、WOAH（OIE）、WHO、FAO、UNEP などの国際機関と協力し、ワンヘルスの課題解決と推進に取り組む。
6. アジアにおけるワンヘルスの課題への研究と児童、生徒及び市民に対するワンヘルス教育の普及のために、FAVA 活動の拠点を整備・強化する。

ラスト氏から本シンポジウムの取りまとめが行われ、藏内大会長から、第 21 回 FAVA 大会の成果として取りまとめられた「アジアワンヘルス福岡宣言 2022」が読み上げられた（写真 32、33）。

藏内大会長から、「本宣言をアジア獣医師会連合から世界に向けて発信することにより、今後のアジア及び世界におけるワンヘルスの実践活動をリード

していくことを決意し、本宣言をここに発表いたします。なお、本宣言の内容は FAVA 加盟 23 カ国・地域の 24 獣医師会にも賛同をいただいております。本大会に出席した全ての代表者の署名をいただいております。」との説明があり、大会長自身が署名した後、同宣言は満場一致で採択された。続いて、服部福岡県知事から今後の福岡県におけるワンヘルス活



写真 34 調印後の FAVA 役員、各国代表者、服部福岡県知事



写真 35 藏内大会長閉会挨拶

動への取組についての決意が述べられた後、藏内大会長をはじめ FAVA 役員と各国代表者が登壇し、服部知事も加わって記念撮影が行われた（写真 34）。

その後閉会式に移り、本大会のハイライトとなった場面や建築家隈研吾氏のワンヘルスに関するインタビュー等が収録され、「ワンヘルス一つの地球」と題したビデオが上映され、最後に藏内大会長から閉会挨拶が行われて、第 21 回 FAVA 大会は閉会された（写真 35）。

藏内勇夫大会長閉会挨拶

3 日間にわたり開催された第 21 回アジア獣医師会連合（FAVA）大会を閉会いたします。

本大会の閉会に際し、アジア・オセアニア各国からご参加いただいた多数の獣医師の皆様、医師・医療関係者の皆様、環境など関係分野の皆様に対し、心からお礼申し上げます。また、ご支援ご協力をいただいた多くの関係機関、関係団体並びに関係企業の皆様、そして当地福岡県、福岡市の関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

本大会では、河岡義裕先生の記念講演、国際的に著名な演者の方々によるワンヘルスに関する特別シンポジウムや招待講演、さらに一般講演や学会・年次大会の講演が行われ、それぞれ活発な討議及び意見交換がなされました。

ご講演いただいた先生方、そしてプログラムの編成にご尽力いただいた組織委員会委員の先生方、そして本大会にご参加いただいたすべての皆様に対し、心から感謝申し上げます。

一昨日の開会式で私は、未曾有の生物災害となったコロナ禍の中にあっても、アジア各国から約 2 千名の参加者を得て開催される国際的な大事業である本大会の成功のために、皆様のお力を結集していただくようお願いいたしました。そして、まさに皆様のお蔭で、本大会を盛会裏に閉会し、さまざまな成果をあげることができました。

特に大会の掉尾を飾る「アジアワンヘルス福岡宣言 2022」は、アジアから世界に向けて、ワンヘルスの重要性和今後の方向性を発信する輝かしい成果となりました。

今回の「第 22 回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」は 2023 年 11 月、マレーシアのサラワクにおいて開催されます。この大会もコロナ禍の影響を受け、2 度にわたって 3 年延期されました。現地の大会関係者の皆様のご苦労はいかばかりかとお察し申し上げます。

次回大会の成功を期し、1 年後に再び皆様とマレーシアでお目にかかれることを祈念いたしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。